

し^{とく}知^{とく}得！かしこい消費者

【編集・発行】台東区 区民部くらしの相談課消費者担当

〒110-8615 台東区東上野4-5-6 TEL. 03-5246-1144

未来もずっとくらし続けていける社会のために 世界の目標「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」を学ぼう！

今、地球の人口は年々増えています。でも、地球にある資源^{しげん}は限られているため、このままのくらしを続けていくと、電気などのエネルギーが不足してしまうかもしれません。

また、今のようにエネルギーを使い続けることで、地球を温めてしまうガスが増え、宇宙に出るはずだった熱が地球に残ってしまい、地球全体の気温が上がってしまいます。そのため、天候^{あま}が乱れ農作物などが作れなくなり、食べ物が足りなくなるかもしれません。

地球のみんなが豊かで幸せに暮らす未来のために、「SDGs」という2030年までにしておかなければならない、17の目標が国連の会議で定められました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



資料：国連広報センター

1. クイズでSDGsを学ぼう！

Q1. (食品ロスに関する問題)



世界では、毎年どれくらいの食べ物が捨てられていますか。

- ① 生産される食料の10分の1
- ② 生産される食料の5分の1
- ③ 生産される食料の3分の1



Q2. (海洋プラスチックに関する問題)



皆が今と同じ生活を続けた場合、海の魚の量より、海中のプラスチックの量が多くなるのはいつ？

- ① 2030年
- ② 2050年
- ③ 2100年



※裏面の「2. クイズの答え」も見てね！

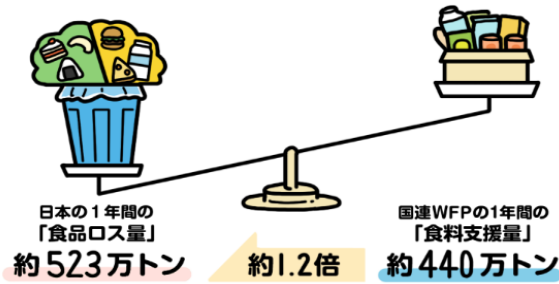
2. クイズの答え

A1. 正解は、「③ 生産される食料の3分の1」

FAO（国際連合食料農業機関）のまとめによると、世界では食料生産量の3分の1に当たる約13億トンの食料が、毎年捨てられています。

日本で1年間に捨てられる量は、523万トン（2021年）と、戦争などで食べるものに困っている地域などに対する、世界の食料支援量よりも多くなっています。

世界の食料支援量よりも多い日本の食品ロス量

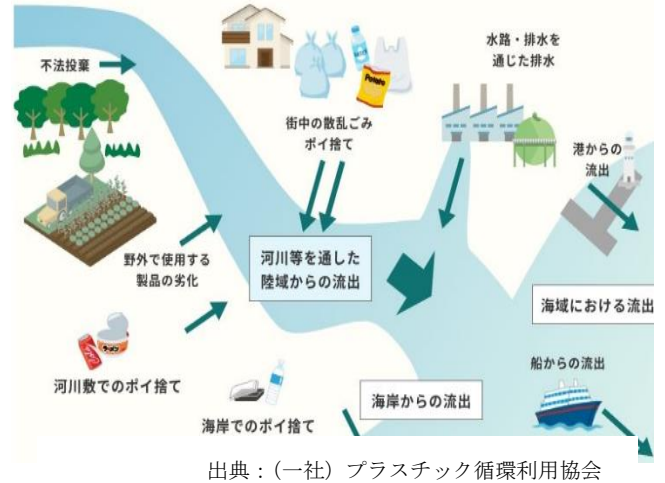


出典：農林水産省及び環境省推計、国連WFP協会

A2. 正解は、「② 2050年」

不法投棄※などで、川などに流れ込んだプラスチックごみは、日々海へと運び込まれています。

海に流れ着く量は、世界で年間約800万トンで2050年には海にあるプラスチックの総重量が、海にいる魚の総重量を上回るとされています。
※決められた場所以外に、処理せずゴミを捨てること



3. 目標をかなえるために、私たちにできることってなんだろう？



資源をむだにせず つくろう、使おう

試してみてもは？
ローリングストック法

ふだん食べている食品を少し多めに買い置きして、食べたならその分を買い足していくことにより、特別なものを買わずに保存ができます。

また、賞味期限切れで捨ててしまう食品ロスも防げます。



びちく
備蓄とは、万に備えてたくわえておくことです。



海の自然と海の 生き物を守ろう

プラスチックごみが、太陽の光や波の力で細かく、くだかれ、つぶ状になったものを、マイクロプラスチックといいます。

マイクロプラスチックを、魚やカメがエサとまちがえて食べてしまい、病気になる等、大きな問題になっています。

一方、軽くて丈夫で、さまざまな使い方ができるプラスチックは、生活に欠かせないものとなっており、賢く付き合っていくことが必要です。

[プラスチックとの賢い付き合い方の例]



出典：環境省「エコジーン」



台東区消費生活センター

相談専用電話 (03) 5246-1133

受付時間 月～金 午前9時～午後4時

電話または来所による相談（相談無料・秘密は守られます。）

